



## 環境展 2010

今年も早いものでもう6月を迎えております。このリサイクル通信は担当者4名で書いております。特別な事情でもなければ順番に回ってきますので、前回私が書いたのは今年の2月の記事でした。そして例年通り6月号は環境展の話題から始まります。

今年も変わらずに東京ビッグサイト東館すべてと屋外展示場で開催されました。

去年は通路も広く、1間ブースと呼ばれる小さな出展者も少なく、見て回るのもあっさりとした記憶があります。

今年は去年の寂しさは薄れていましたが、それでも最盛期の環境展から比べると70～80%ぐらいの感じを受けました。業界新聞を読むと、辛口批評記事になりますが、環境展で展示してあるような大型の破碎機などで大量に処理する時代ではなくなっている、と書かれておりました。確かに現在の日本では物によっては、処理能力が発生量を超えている時代を迎えております。大量生産、大量消費の時代に対応したものとなっているので、発生自体が減少している今の時代ではその能力は余りあるものとなってしまいました。

さて、今回やけに数が減ったなと感じたのが、屋上緑化です。その反対に増えていたのはこれからの夏に向けてというのもあるのでしょうか、ミスト発生器でした。あちらこちらでミストを発生させて扇風機で飛ばすという気化熱を利用した屋外や工場内などの簡易冷却を狙った商品です。ミスト状にした水を飛ばし、気化するときに周りの熱を奪うので温度が数度ですが下がります。それに加え、臭気、埃などを抑えると謳っている機種もありました。しかし、素朴な疑問ですが、気化して熱を奪うのはいいとしても、蒸発してもそれはなくなるわけではなく、空気中に湿度として残るのではないのでしょうか。高温多湿の日本の夏に数度の気温低下と

引き換えに湿度が上がるのでしょうか。それとも湿度はうまい具合にどこかに飛んでいくのでしょうか。そんなことはありあえないと思うので、やはりこのあたりは湿度としてのこるのでしょうか。

どなたか扇風機で湿度20%前後の風が送れるようなものを発明してくれないでしょうか、普通に考えればそれは除湿機なんでしょうけど。業務用扇風機に付けられれば炎天下で働く人達のわずかですが応援になると思います。余計な電力を使わないで出来ればすごい発明になりますが、エアコンが売れなくなりそうです。

ここでまた見つけたのは冷却服などでテレビでも放送された冷却ファン付きの作業服です。これは数年前からありました。ここの社長さんはまた新たなものを考えていました。今度はヘルメット内冷却装置です。真夏のヘルメットの中は炎天下の中で作業しているとかなりの高温になります。休憩時には水道で冷やしたりしております。そこで単三電池二本でヘルメット後頭部に取り付けたファンを回し、その風をノズル状のものでヘルメットの後部すきまから差込んで風を送り込むという物です。実際に現物も販売していましたが、なかなかのアイデア商品だと感じました。この夏に少し検討してみようかなと考えております。

## 急激な暴落

このところスクラップ価格の急落が起こっております。一日おきどころか、連日での値下げ通知をわが社も受けております。鉄だけでなく非鉄(銅・アルミ・ステン)なども値を下げしております。最初は中国が金融引き締めに入った関係からと考えておりましたが、どうやらその要因にギリシャに端を発したPIIGSの五カ国問題も絡んでくる事態となっているようです。まとめてみるとトルコが鉄製品をヨーロッパ(EU)に輸出、それがギリシャ問題以降EU圏での販売が低迷、さらに販売価格の下落、そこで新たな販売先としてアジア圏、中国へ輸出先を求めたが、金融規制で購買意欲が出ない。その中国は鉄製品を韓国に販売。韓国内での鉄製品生産がこれに押され減産となり、日本産スクラップを買う気をなくし、日本で余剰なスクラップは行き先をなくし、価格の引き下げにつながるという、需給の調整がワールドワイドな規模で行われたということです。日本の鉄屑は今回の件をみても、これだけの国が絡んでくるという時代を迎えています。

さあ、この次はいったいどんな風に時代が動き、スクラップが動くのか。激しい時代の動きにどのような波がくるのか、ひと時も目が離せません。